

ジオパーク名	概要	過去の審査の主な指摘事項(該当あれば)	今回の調査結果		今回の評価結果
			主な評価点	改善を求める点	
白山手取川	「桑島化石壁」周辺から中生代の立木の状態の珪化木や植物化石をはじめ、昆虫類、貝類、魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類、恐竜など、多種多様な化石が発見されており、今回の机上審査でも、4人のレビュアーから国際的価値を有する地質遺産がある、と結論付けられた。さらに、手取川の源流から河口域までのほぼすべてがエリアに含まれており、1本の河川による侵食・運搬・堆積作用を追跡できる利点があることに加え、日本列島においてプレート沈み込み境界から最も離れた位置で活動を続ける白山火山もある。地域団体、大学などとの連携体制も整い、持続可能な社会の担い手となる人材育成、地域経済の活性化を目指したジオツーリズムの取組み、ジオパークネットワーク活動への積極的な参加など実績を積み重ねてきた。	<ul style="list-style-type: none"> ジオパーク、エコパーク、SDGs未来都市の使い方を含め、持続可能な開発の方針・ビジョンを設定し、地域およびネットワークに共有 マーケティングの考え方を整理し関係者と共有 さらなる視認性向上と多言語対応 既存のツアーの実質的なジオツアー化 地場の料理の白山ブランド化にもっと関わる 	<ul style="list-style-type: none"> 地質遺産の国際的価値について整理され、申請書やプレゼンテーションでの説明が分かりやすくなった。 国内外のジオパークネットワーク活動に長年にわたって継続的かつ積極的に参画している。 教育活動は、地域内にとどまらず、大学のフィールドワークの受け入れ、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成など幅広く取り組んでいる。 有償のガイドツアーが提供できるようになっており、英語やスペイン語での対応も準備が進められている。 パートナーシップ連携協定締結を進めており、体制を強化して、関係団体との連携事業を進めている。 事務局スタッフのジェンダーバランスがよく、誰もが事業の企画発案し、実現しやすく女性が活躍しやすい環境をつくっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 可視性の向上。特に松任駅前、小松空港、JR金沢駅 地質遺産の保全。国指定天然記念物の露頭の扱いの確認・整理。管理者情報整理・共有による保全・活用推進体制強化 施設の改善。白山市立博物館のジオパークコーナー、白山恐竜パーク白峰の桑島化石壁の価値を伝える展示の改善、英語解説の追加 ユネスコエコパークとのパートナーシップ協定締結及び特徴と役割分担、相乗効果を整理した上でのステイクホルダー間での共有 地元住民の意見が直接活動に反映される仕組み・体制改善に向けた取組 SDGs未来都市としての具体的取組と達成できた事項の整理・情報共有 申請書における曖昧表現の回避と実現できている活動の積極的なアピール 	○
糸魚川	2009年の世界認定以降、着実に活動を続けており、ジオパークの市民の理解も深い。ヒスイをはじめとして地球科学的な地域資源が住民の誇りになっており、学校教育やガイド活動にも住民が積極的に参加しているように見受けられる。インフラ整備や看板の内容改善も進んでおり、状況に応じて進化する柔軟な姿勢も評価できる。ジオツーリズムについてもいくつかの成功事例を有している。一方で、持続可能な経済活動の面で、糸魚川ジオパークとして行っている教育・保全活動などを地域の付加価値として活用できていないところが見受けられる。新規に海のアクティビティや山のサイトでのツアー開発など地域事業者や住民等の新たな活動が模索されており、今後の展開が期待される。	<p>下記の前回の指摘事項はすべて改善しているか、改善に向けた措置がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸魚川静岡構造線露頭の改修 いくつかのサイトの安全性の確保 野外説明板などの平易化 ジオパークスタッフ内における女性の役割協会 パートナーシップ協定の基準の明確化 	<p>0歳から18歳まで一貫で行われるジオパーク学習のような教育と、フォッサマグナパークに代表されるような主要サイトのハード整備の充実、そしてフォッサマグナパークの活動は糸魚川ジオパークの強みである。これらの活動への市民からの支持、ヒスイなど地質資源を誇りに思う市民の理解がある。ヒスイの町、フォッサマグナや糸魚川-静岡構造線の町として日本国内で広く知られている。ジオパークに認定される以前からの活動も生かし、日本の他のジオパークの見本となり、また世界のジオパークと交流してきた。ヒスイの加工販売に関して、加工業者とヒスイの持続可能な利用に関する話し合いができるようになってきたこと、石灰石鉱山の開発にあたり、開発地周辺の自然・文化遺産の調査の依頼があったこともおおきな成果である。</p>	<p>糸魚川ジオパークの各種遺産や活動から地域に生まれる価値をジオツーリズムなどの経済活動に十分生かしているように見えない。マイコミ平のツアーなど、一部で持続的な地域資源の保全と活用につながるツアーが成功しているが、個人事業者や地域コミュニティが自立してツアーやアクティビティを運営している例は少ない。今後は、糸魚川ジオパークが生む付加価値を生かした事業者との戦略的なパートナーシップ締結と、それによる新事業立ち上げの支援など、強みを十分生かした活動が求められる。運営組織の改革がその起爆剤になるものと期待されるが、それが市民や事業者を主体とした持続可能な社会づくりを推進につながる体制づくりや活動が望まれる。</p> <p>ヒスイについては、日本の国石に認定されたこともあり、位置づけを明確にして内外の意見を取り入れながら持続的な活用の方策を探ってほしい。</p>	
島原半島	ジオパークの運営組織や財政が安定しており、ユネスコからの指摘事項についても概ね対応できていると考える。しかしながら、今回、全行程をオンラインで実施したため、「ビジビリティ」、「施設・インフラ整備」についての確認が十分に行えなかった。可能であれば、現地確認をした方がよい。	<ol style="list-style-type: none"> ガイドの経済化 マスタープランにおけるブランディング戦略の位置づけと立案 可視性の向上(ウェブサイトの多言語化、道路標識の改善、悪天候時の避難所の設置) 禁止行為・注意喚起のアナウンス(ピクトグラムなど) 認知度の向上 事務局の運営強化、特に財政面(自主財源の確保) 教育プロジェクトの他校への展開、大学との連携 災害や歴史などのプロモーション方法の工夫改善 ネットワーク活動 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの参加:地域住民やステークホルダーのジオパーク活動への参加が着実に進んだ。 遺産の保全:災害遺構(定点・農業研修所)の保存整備に進展と成果があった。文化遺産「原城跡」が世界遺産の認定を受けたことにより、ジオパークとの相乗効果の発揮が見込まれる 教育:高校との連携が進み、次世代の育成が順調に進んでいる ジオツーリズム:有料ガイドサービスが提供されるようになった。島原半島観光連盟と修学旅行ジオツアーを開発。九州オルレ南島原コースの認定、環境整備と美化活動など 	<ol style="list-style-type: none"> 「指摘事項への対応」における説明の拡充。特に「3. 可視性の向上(域外での可視化を向上すること)」については説明方法や対応についての再検討を求める。 プロGRESSレポートにおける軽微な修正および加筆修正に関するアドバイス より良いジオパークになるための提案・アドバイス 独自の無形文化遺産目録の作成 ジェンダーバランスやギャップの改善 世界遺産との連携の具体的方針の決定 学習指導要領の改訂に対応した教育プロジェクトおよびプログラムの検討 など 	

ジオパーク名	概要	過去の審査の主な指摘事項(該当あれば)	今回の調査結果		今回の評価結果
			主な評価点	改善を求める点	
隠岐	日本海西部の離島のユネスコ世界ジオパーク。日本海と日本列島形成の歴史を記録した岩石をはじめ、第四紀の環境変動の結果生み出された独自の植生や、隠岐の地史・地理・地質が生み出した自然環境に最適化した文化、日本海の離島という地理によって育まれた歴史などが狭い島の中でコンパクトに見られる、大地と人、人と自然をつなぐジオパーク。	a.文化を取り入れた展示施設の整備 b.保全・保護を目的としたジオパークによる規則の策定と警告看板の設置 c.ジオサイトへの誘導標識の整備 d.サイト看板の改善と整備 e.地質遺産の教育推進 f.3つのテーマのつながりの理解促進 g.環境省との協議書の締結 h.GGN.APGNへの貢献強化	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織に関して、2021年度中の隠岐ジオパーク推進協議会と隠岐観光協会の合併およびDMO化が予定されており、地域と協同しての観光地域づくりが進展する。ジオサイトを活用した経済効果創出が期待される。 ・未就学児から高等学校までの一貫したジオパーク教育や、ジオパークを軸とした隠岐高等学校魅力化コンソーシアムの取り組みなど、ジオパークを教育に活用する枠組みは充実しつつある。 ・隠岐の島町西郷港に「隠岐ジオゲートウェイ」(新築)、海士町菱浦港そばにサイエンス×アートをコンセプトとしたジオパーク拠点施設(既存ホテルの増改築)する事業が動いている(いずれも2021年4月オープン予定)。隠岐ジオパークの可視化が一層進むことが期待される。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジオパークのガイドラインに関して、事務局スタッフおよび関係者で深い理解が不足している。特に「地質遺産の保全」「持続可能なツーリズム」「持続可能な開発」の理解不足と取り組み不足が深刻である。 2. ジオツーリズム受け入れ態勢が十分に整備されていない。ジオパークとは何か、隠岐ジオパークの魅力(「大地と生態系と文化」は隠岐ジオパークの説明にはならない)は何か、各ジオサイトの魅力は何か、個人客が納得できる情報提供の工夫がまだまだ不足している。断片的な情報の羅列ではなく、利用者の目線に立った情報発信をもっと工夫してほしい。 3. 関係者内でのコミュニケーション不足がある。事務局長だけでなく、すべての関係者で全体像を把握し今後のビジョンを共有し、主体的な活動となることが望ましい。 4. ネットワーク活動の成果が具現化されていない。山陰海岸UGGpや島根半島Gpとの日常的な連携にとどまらず、JGNやGGN他地域の取り組みからもっと積極的に学ぶべきである。 	
伊豆半島	伊豆半島は変動する島弧どうしが衝突している世界で唯一の場所であり、南から移動しながら、海底火山から陸上火山の成長と単成火山群まで、多様な火山活動の変遷をたどってきた。海底火山岩類が良好に露出する半島の西海岸は世界の火山学者の研究対象となっている。また、変動し続ける伊豆半島では、1930年に北伊豆地震を引き起こした丹那断層が、世界の活断層研究の礎ともなった。伊豆半島は川端文学の舞台になるなど、古くから、文化や歴史遺産と地質遺産が強く結びついており、世界文化遺産となっている韮山反射炉は幕末の政変と地形・地質の背景が反映されたものである。伊豆半島ではジオガイドが、地質遺産と自然・文化遺産とを結びつけた精力的なツーリズムを展開していると同時に、地域や教育現場においてジオパーク活動の主要な推進役となっている。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地質遺産とその他の遺産との関係を明らかにし、教育、観光などに反映すること。 2. 地質遺産の国際的価値を、あらゆる機会を活用して訪問客に解説・普及すること。 3. 文学、伝説、音楽などを含む、伊豆半島の無形遺産を詳しく調査し公開すること。 4. 明確な基準で宿泊、飲食、交通、地場産業等の事業者とパートナー契約を結ぶこと。 5. 海岸部と内陸部を同一の基準でバランスのとれた開発すること。 6. 景観に反映された優れた歴史的芸術や文学作品の目録を整備すること。 7. 国際的な協力や交流を進めること。 8. 指摘事項を反映した基本計画と行動計画を作成すること。 9. 他のユネスコ世界ジオパークとのネットワーク強化に努めること。 10. 女性の役割の向上に努めること。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年8月から新事務局長が赴任し、ジオパーク活動が活性化しつつある。 2. 推進協議会の法人化に向けた具体的計画ができつつある。 3. 多くの認定ジオガイドが育成され、彼らが教育現場や地域におけるジオパーク活動の推進役となっている。 4. 予約なしでも参加できるジオツアーが堂ヶ島、石廊崎、浄蓮の滝などで展開されている。 5. 主要拠点ジオリアに加えて、各自治体のジオパーク拠点となるビジターセンターが整備された。また、ジオリアはジオガイドによって運営されている。 6. 静岡大学の東部サテライト「三余塾」がエリア内に新設され、その教員として転出した元専任研究員とジオパークがうまく連携した活動を展開している。加えて、研究拠点「あまじお」も整備された。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ジオパーク推進組織の管理運営体制の強化と基本計画及び行動計画の策定 2. ジオパーク地域全域でのビジビリティ(可視性)の向上 3. 世界文化遺産である韮山反射炉との協業 4. ジオパーク地域全域でのジオパーク学習の推進 5. パートナーシップ戦略と協定書の締結 6. ジオリアなどガイダンス施設の展示物改善 7. ジェンダーバランスの継続的な改善 	